

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 6年 2月22日

事業所名 おいらせサポートハウスKの家

対象職員数 13名 回収数 13名 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	13			
	2	職員の配置数は適切であるか	13			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	13			・焼山Kの家についても、工夫されていると思います。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	13			・OODAの方がしっくりくると思います。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	13			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	13			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	12	1		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	12	1		・内部研修やオンライン研修等に参加している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	13			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	13			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	13			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	13			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	13			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	13			・個別課題や音楽療法、ダンスワークショップを行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	12	1		・ミーティング時や開始前に確認している。 ・ミーティング時の申し送りや、保護者からのノート記入の件など、確認しあえていると思います。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	11	2		・気付いたことはその都度話し合っている。 ・ミーティング時の申し送りや、保護者からのノート記入の件など、確認しあえていると思います。 ・ケース会議等を行い、話し合った内容を共有している。 ・毎日午後に行い、支援終了後には必要の都度行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	13			・日誌等に1日の様子を記入している。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	13			・ケース会議をしている。	
19	「放課後等デイサービスガイドライン」の総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	13				
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	11	2		・担当者がモニタリングをしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	13			・送迎時申し送りをうけている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	7	3	2	・医療的ケア児の受入れは今現在ない。 ・医療的ケアの必要な子は受入れしていない。 ・受け入れがない。 ・現在受け入れなし。 ・受け入れる場合には適切に対応していくと思います。 ・必要時には体制を整えている。 ・対象となる児童がいれば体制を整えていくと思います。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	7	2	3	・新規の受入れがあれば実現したい。 ・わからない。 ・利用される児童がいれば、必要に応じて、対応すると思います。 ・受け入れの際は情報共有を行いたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	12	1		

関係機関や保護者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	3	1	・必要に応じて。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	4	6	・活動の機会はない。 ・コロナ禍等でもあり、なかなか交流するのは難しいのかもしれませんが、地域の児童との交流などは可能だと思います。運動会に土曜日デイの利用者様が応援(見学)にいらっしゃったりしていましたので…。 ・コロナ後、ないと思います。 ・交流の機会があまりない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	6	4	2	・必要に応じて。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	13			・送迎時に行っている。 ・ノートに記入したり、送迎時に口頭で伝えている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8	3	2	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	13			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	12	1		・面談やオンブズマン訪問の呼びかけ等している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	11	2		・利用者の減少で、集まるような機会は少ないのかもしれませんが、支援はしていけると思います。 ・機会があまりない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13			・オンブズマンによる苦情・相談受付もやっている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	12	1		・K通信発行(担当しているスタッフに感謝です)。 ・必要に応じて発信されていると思います。
	35	個人情報に十分注意しているか	13			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	13			
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	10	3		・コロナ禍もあり、なかなか難しかったと思いますが、環境が整えば、可能だと思われれます。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	13			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	13			・避難訓練を行っている。 ・年間計画を立てて実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	13			・内部研修やオンライン研修に参加している。 ・委員会開催、研修実施等行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	13			・身体拘束はしない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	10	2		・保護者の指示により対応している。 ・対象児童がいれば対応していくと思います。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	13			・スタッフ間で回覧をしている。

《事業所における回答と改善への取り組み》

<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[項目2]:基準以上の配置をし、日によっての現場での不足感、職員の交代のタイミング、業務量について配慮・調整している。 ・[項目7]:第三者による評価とその評価に基づいた改善を定期的に行っている。 ・[項目12・13]:専門家による音楽療法、ダンスワークショップの開催や、常勤・非常勤スタッフの人材確保、継続的な活動内容の検討により、活動の充実・拡充を図っている。 ・[項目15・16]:朝と午後、ミーティングをし、職員全員で情報を共有し、誰でも支援できるようにしている。その他、支援の振り返りや検討等の話し合いの時間等を必要の都度設けている。 ・[項目18]:6ヶ月ごと(あるいは3ヶ月ごと)にモニタリングを実施し、放課後等デイサービス計画の見直し等を行っている。 ・[項目19]:ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援を行っており、また、その状況により臨機応変に活動している。 ・[項目22]:医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合の主治医等の連絡体制については、必要に応じてその体制を整えている。 ・[項目23]:保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との情報共有・相互理解については、必要な場合に実施している。 ・[項目25]:必要に応じて、児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関による助言、研修等を受けている。 ・[項目26]:交流機会の確保に引き続き努める。 ・[項目28]:お便り帳、送迎時、メール等で、また支援計画の見直し、評価等で共通理解をはかっている。 ・[項目29]:必要またはご要望に応じて支援等を行っている。 ・[項目30]:契約時、重要事項説明の中で、あるいは質問等に、担当者が説明している。 ・[項目32・37]:今年度から「知の会」や「クリスマス会」の開催を再開した。これまで以上に開かれた事業に尽力していく。 ・[項目41]:当事業所では、これまで身体拘束の事例は無い。引き続き身体拘束を行わずにできる支援を事業所として考え、行っていく。 ・[項目42]:食物アレルギーについては、保護者からの指示に従い対応している。 <p>【改善への取り組み】</p> <p>今年度に入り種々の活動再開が可能になる中、評価項目のうち、保護者会等の開催等や開かれた事業運営のところで改善できている部分があったものの、保護者の皆様や地域・外部の方々との交流はまだ不十分であり、引き続き課題が残されている。放課後等デイサービス事業は今年度をもって廃止とするが、法人として、これまで以上に行事・イベント・訪問等を通じた交流機会の増加をはかっていく。その他、これまでの自己評価結果等も踏まえながら、法人各事業における職員の業務調整、相談・サポート体制及びミーティング・会議や新入職員へのOJTの際の情報発信・共有体制の強化、オンライン研修を含めた研修機会の確保等にも、法人として引き続き力を入れていく。</p>
--